

令和 4 年度第 1 回千葉県県民活動推進懇談会における委員意見とこれに対する対応

(令和 4 年 1 1 月 1 7 日現在)

項目	分類	第 1 回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
1	理念	・そもそも県民活動自体の大きな目的は何か、県民活動のアウトカムは何か問われている。	・第 5 章「施策の方向性」の「1 目指す千葉県の姿」に、県民活動の最終的な目的・目指す成果について記載しました。	32
2	理念	・事業にお金をかけることも大事だが、県民の自主性や地域の個性をどうやって促していくのか、その原点に立ち返ることが最も大事である。	・いただいた意見については、具体的な施策の推進に当たり、常に念頭に置いて取り組んでまいります。	—
3	役割分担	・県と市町村との関係について、連携が積極的に構築されるよう、より小さな単位の自主性、自律性を尊重するという「補完」の考え方を原則とすることについて計画に書き込むことが大事である。	・第 2 章「県民活動の必要性とその意義」に、「4 主な主体とその役割」を新たに追加し、各主体の役割を明確にするとともに、行政である県と市町村は「補完性の原理」に基づき、連携・協力して施策を進めることについて記載しました。	7
4	共生	・地域共生社会においては、支援を受けるだけでなく、全員でどうしていくのか、全員が主体であることをもっと明確にした方がよい。	・第 2 章「県民活動の必要性とその意義」の「3 県民活動の意義」における「(3) 共生・共助の精神により培われた地域社会の実現」に、共に作り上げていく地域社会の重要性について記載しました。 ・また、同章「4 主な主体とその役割」において、各主体の役割を明確にしました。 ・さらに、第 5 章「1 目指す千葉県の姿」に、誰もが県民活動に参加し、みんなの力を結集して未来を切り開いていく、という県民活動の最終的な目的・目指す成果について記載しました。	5～7 32

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
5	共生	<p>・外国人の増加により社会環境が変化しており、関わり方について様々な課題が生じている。地域性を考慮しながら、県と市町村が連携してボランティアと地域をつなげていくことが大事である。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「1 社会環境の変化とそれに伴う課題」における「(4) 外国人の増加」に、外国人が急増していること、また外国人県民を含めた全ての県民が地域社会の担い手であることを記載しました。</p> <p>・また、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性1 県民活動への理解や参加の促進・定着」における行動計画「(2) 県民活動の体験機会の提供と定着の促進」に、「ちばボランティアナビの運営」を位置づけ、地域の団体とボランティアのマッチングを図ることとしています。なお、当該事業の運営に当たっては、市町村支援センター等と連携し、効果的な事業実施に努めてまいります。</p>	17, 34
6	参加促進	<p>・県民活動に参加するハードルはまだ高いので「日常の感覚」で参加しやすい機会をつくることが大事である。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(1) 県民活動の裾野の拡大」において、それぞれのライフステージやライフスタイルに応じて、多様な世代に参加促進を図るための環境整備の重要性や参加経験のない方でも気軽に体験できる機会の充実について記載しました。</p> <p>・また、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性1 県民活動への理解や参加の促進・定着」における行動計画(1)(2)に、参加するハードルが下がるよう、SNSでの情報発信や活動経験がない方に向けた体験会の実施について記載しました。</p>	30, 34

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
7	ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への思いは様々で、参加形態や活動内容も多種多彩である。 ・東京2020大会の外国人へのおもてなし活動と地域でのボランティア活動では参加する側の意識に乖離がある。そこをどうつなげていくのか、難しいところだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(2) 県民活動への継続的な参加の促進」に、東京2020大会を契機として育成した人材など、意欲ある県民が地域で活躍し続けるための環境整備の重要性について記載しました。 ・県では、東京2020大会を契機とした各種取組の成果をレガシーとして地域で引き継いでいくため、昨年度、ボランティアマッチングサイト「ちばボランティアナビ」を立ち上げました。 ・そこで、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性1 県民活動への理解や参加の促進・定着」における「(2) 県民活動の体験機会の提供と定着の促進」に、「ちばボランティアナビの運営」を位置づけ、引き続き、意欲ある県民が自身の興味・関心に応じて地域で活動できるよう後押しをしていくこととしています。 	30, 34
8	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを含め、様々な情報発信ツールを活用して、具体的な活動や成果の情報発信を進め、県民活動への理解を広げていく必要がある。インターネット上での情報発信が重要。 ・県民は市民活動に参加したことで生じる自分や地域の変化を目に見える形で知りたいのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(1) 県民活動の裾野の拡大」に、県民活動への理解と参加の促進に向け、SNSを含めた様々な形による情報発信の重要性について記載しました。 ・また、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性1 県民活動への理解や参加の促進・定着」における「(1) 県民活動の普及啓発の推進」に、各種広告媒体やSNSを活用して県民活動への理解や参加促進に資する情報を発信することについて記載しました。 ・なお、県では東京2020大会開催後、中高生からシニア世代まで、各世代ごとに都市ボランティアの座談会を実施し、その様子をYouTubeに掲載しています。動画では、都市ボランティアへ参加したことで得たものや今後の地域での活動などについて語っていただいております。今後はこうした動画を活用して、県民活動への理解促進に努めてまいります。 	30, 34

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
9	参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代の参加をどのように促し、裾野を広げていくかが重要。 ・若い世代では、働く時間以外で地域で能力を活かしたいというニーズが出てきている。 ・プロボノは、働く世代が参加しやすいツールの一つであり、支援される側のみならず、支援する側にも新たな気づきをもたらす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章「県民活動の必要性とその意義」の「3 県民活動の意義」における「(1) 社会参加と自己実現」に、プロボノの意義について記載しました。 ・また、第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「1 社会環境の変化とそれに伴う課題」における「(3) ワーク・ライフ・バランスの推進」に、仕事で培った知識や経験を活かして活躍できる環境の整備が重要であることについて記載しました。 ・さらに、同章の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(1) 県民活動の裾野の拡大」に、働く世代も含め、多様な世代の参加を促すための環境整備の重要性について記載しました。 ・なお、プロボノに関し、いただいた意見については、具体的な施策を検討・実施する上で、参考とさせていただきます。 	5, 16, 30
10	参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や子どもたちの参加がとても重要。青少年の参加を促していくことが、県民活動の大きな課題であることから、策定趣旨に次代を担う青少年の役割を記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の参加促進のためには、県民活動に関する学習の機会を持つことが重要であることから、第2章「県民活動の必要性とその意義」の「4 主な主体とその役割」において、学校・大学の果たす役割として、若い世代に対する学習機会の提供等について記載しました。 ・また、第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動を巡る現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(1) 県民活動の裾野の拡大」に、若い世代を含めた多様な世代の参加を促すための環境整備の重要性について記載しました。 	6, 30

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
11	参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続させるためにはボランティアをフォローすることが必要であり、地域で活動している団体と連携して、ボランティアを支える環境づくりを行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(2) 県民活動への継続的な参加の促進」に、意欲ある県民が地域で活躍し続けるための環境整備の重要性について記載しました。 ・また、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性1 県民活動への理解や参加の促進・定着」の行動計画「(2) 県民活動の体験機会の提供と定着の促進」に、地域の団体とボランティアをつなぐ「ちばボランティアナビ」を運営することや団体と協力してボランティアの体験機会を提供すること、またボランティアが継続的に活動しやすい環境の整備のため、団体支援を行うことなどについて記載しました。 	30, 34
12	参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを増やすためには、マッチングサイトを作るだけでなく、もっと人を介してボランティアと団体をつなぐ仕組みをつくってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちばボランティアナビ」の運営に当たっては、ボランティアコーディネーターを配置し、団体の状況や課題を聞き取りながら、ボランティア募集や体験会などを行っています。 ・いただいた意見については、事業を実施する上での参考とさせていただきます。 	—
13	参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への愛着が大事であり、地元の魅力を発信することがボランティア活動に繋がると思うので、日常の活動につながるような魅力発信についても計画に盛り込めれば良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた御意見につきましては、関係部局とも連携し、具体的な施策を進めていく中で、参考とさせていただきます。 	—

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
14	コロナ	<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大でボランティアの受入が難しくなり、ボランティア活動が低迷して、人材の育成が出来ていないのが団体の課題になっている。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「1 社会環境の変化とそれに伴う課題」における「(6) 災害・感染症等のリスクの増大」に、新型コロナウイルス感染症の拡大で活動が低迷していることを記載しました。</p> <p>・また、同章の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(1) 県民活動の裾野の拡大」に、コロナの影響で人材の発掘・育成する機会が減少していることから、裾野の拡大を図る必要性があることについて記載しました。</p>	18, 30
15	コロナ	<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大により社会との接点が少なくなったことで、「心の相談」が増えるなど新たな問題が生まれ、コミュニティの繋がりが弱体化している。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「1 社会環境の変化とそれに伴う課題」における「(2) 深刻化する社会的な孤独・孤立」に、新型コロナウイルス感染症の拡大により、孤独・孤立の問題が顕在化・深刻化していることから、共生・共助の精神に培われた持続可能な社会づくりが求められていることについて記載しました。</p>	16
16	オンライン	<p>・オンライン開催は、遠方の方も参加でき、今まで出会わなかったような方とも会うことができるなどのメリットがあるものの、発言を遠慮してしまう、参加者間の交流や情報交換が困難などのデメリットもあるので、やり方を工夫して両方の良さを活かしていくことが必要である。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「1 社会環境と変化とそれに伴う課題」における「(6) 災害・感染症等のリスクの増大」に、対面と非対面の活動を上手く組み合わせて効果的・継続的に活動することの重要性についてを記載しました。</p> <p>・また、同章の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(4) 感染症への対応」にも同様に記載しました。</p>	18, 31

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
17	団体支援	<p>・団体支援のうち、資金面の支援として、市民が市民を応援していけるように、寄附の裾野をどう広げていくかが大事である。寄附に係る理解の促進・普及、仕組みを創る取組の支援といった形で、県民活動に必要な物的な条件を整えていくことが必要だ。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(3) 市民活動団体等の持続的な活動に向けた基盤強化」に、寄附は資金面で活動を支える一つの重要な参加の形態であることや寄附に係る意識の醸成の必要性について記載しました。</p> <p>・また、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性2 市民活動団体等の基盤強化等の支援」における行動計画「(3) 民が民を支える仕組みの普及・支援」に、寄附に対する意識啓発やクラウドファンディングなどの仕組みの研究・普及等の取組について記載しました。</p>	31, 36
18	団体支援	<p>・地方創生のポイントである「公共私の見直し」において、「私」の領域でできることとして、国が事例にあげているのが、シェアリングエコノミー。「資源」も物的な条件の一つであり、物的条件を豊かにしていくことが県民活動を促進していく上で重要な視点だと思う。連携を促進させていくための物的基盤の環境整備をどうしていくのか強調されても良いと思う。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「1 社会環境の変化とそれに伴う課題」における「(5) デジタル社会の進展」に、シェアリングエコノミーの視点の重要性とその可能性について記載しました。</p>	18
19	連携	<p>・連携を創り出していくためにはプラットフォームという「場」を創っていくことが重要であり、県は、長期を見据え、広域のプラットフォーム創りに取り組んでもらいたい。</p>	<p>・第2章「県民活動の必要性とその意義」の「4 主な主体とその役割」に、県行政は広域的な視点で県民活動を発展させていくための基盤づくりを行うことを記載しました。</p> <p>・いただいた意見については、今後、施策を検討・実施する上での参考とさせていただきます。</p>	7

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
20	連携	<p>・連携・協働について、課題を同じくする人たちが横に繋がっていく、場合によっては全然違う分野や業界が繋がることによって持続可能性を高めていくことが大事である。市町村の中には出会いの場を創る動きなども出てきているので、県としてどんなバックアップができるのかが大きな課題である。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(5) 地域における多様な連携・協働の促進」に、市民活動団体や地縁組織、行政や企業など、様々な主体間による連携・協働の取組を促進することが重要であることを記載しました。</p> <p>・また、第5章「施策の方向性」の「施策の方向性3 多様な主体による連携・協働の促進」における行動計画「(1) 地域コミュニティにおける様々な主体の連携・協働の促進」に、連携・協働を促進するための各種取組について記載したほか、「(2) 市民活動団体等と県・市町村との協働の推進」に、市町村に対する幅広い側面支援を行うことについて記載しました。</p>	31, 38
21	連携	<p>・災害時の備えとして、NPOとしては、特に行政の協力を得ながら福祉分野のネットワークを構築していく必要があると感じている。</p>	<p>・第4章「県民活動を取り巻く情勢と課題」の「2 県民活動をめぐる現状と課題」の「II 県民活動の促進に向けた課題」における「(5) 地域における多様な連携・協働の促進」に、協働の取組は地域におけるつながりを深化させ、災害時などの緊急時にも大きく役立つことについて記載しました。</p> <p>・各分野でのネットワークの構築については、関係部局にも情報共有し、具体的な施策を進めていく中での参考とさせていただきます。</p>	31
22	地域との連携	<p>・最近、学校の活動と地域の方々をつなげていく動きが活発になっているので、計画に明記するかは別として、今後の検討のなかで触れられる機会があると良い。</p>	<p>・第2章「県民活動の必要性とその意義」の「4 主な主体とその役割」に、学校・大学の役割として、地域における様々な主体と連携・協働しながら教育活動に取り組むことが求められていることについて記載しました。</p> <p>・なお、学校と地域との連携については、前計画において関連事業として位置づけていたところであり、いただいた意見については、今後、当該計画の関連事業を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	6

項目	分類	第1回懇談会での意見	対応の方向	素案該当ページ
23	市町村	<ul style="list-style-type: none"> 市町村と連携するに当たっては、地域の特性やそれぞれの役割を踏まえて、市町村のニーズとうまくかみ合うように事業展開するとより効果的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2章「県民活動の必要性とその意義」の「4 主な主体とその役割」に、行政の役割として「補完性の原理」に基づき、県と市町村が連携して施策を進めることについて記載しました。 また、具体的な施策の推進に当たっては、市町村担当課と積極的に情報共有や意見交換を行うなど、効果的な実施に努めてまいりたい。 	7